

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	6年 外国語（9月） NEW HORIZON Elementary 6 Unit 4 7h/8h 扱
③言語活動の充実を目指した授業づくり	高知県高知市立義務教育学校土佐山学舎 外国語担当 川越 美和

義務教育学校の良さを活かして、相手意識を持った交流をしよう！

感染症対策の影響で、例年よりずっと短かった今年の夏休み。いつものようにいろんなところへ行けたわけではないけれど、子どもたちにとっては、やっぱり楽しかったようです。6年生では、2学期最初の単元「Summer Vacations in the World」で、自分の夏休みについて伝え合う活動を行いました。

- ① はじめに、昨年度お世話になった ALT の先生方に国際電話をかけ、アメリカ、シンガポール、それぞれの国での今年の夏の様子を教えてもらいました。シンガポールでは1年中夏なので、「夏休み」ではないということも教えてもらい、子どもたちは興味を持って話を聞いていました。
- ② 教科書を使いながらいろいろな学習をした後、夏休み絵日記を書いて、クラスの中で伝え合いました。
- ③ そして、他の学年にも聞いてもらうことになりました。本校は義務教育学校なので、1年生から9年生までの児童生徒が一つの校舎で一緒に学習しています。子どもたちの希望で、今回は2年生と8年生と交流することになりました。2つの交流を通して、子どもたちが感じたことを紹介します。

はじめは2年生です。2年生の子どもたちも、日本語で夏休みの絵日記を書いているので、工夫をすれば伝わるのではないかと考えました。

子どもの感想より

「Stag beetle って何?」と聞かれたので、絵を指さして “This is a stag beetle.” と言うと納得してくれました。大きく言ったりゆっくり言ったりして自分が感じたことを伝えたり、絵やジェスチャーを活用したりするのが大切だと分かりました。



次は、8年生との交流です。どんな風に伝えればいいのか、みんなで作戦を立てました。「2年生の時よりはスピードを上げて話した方が聞きやすいのでは」「どんな質問が来るかな」「こっちからの質問も増やそう」

子どもの感想より

2年生の時よりたくさん質問してくれました。おかげで会話が弾んで笑う場面も出てきたので、8年生はさすが英語の会話で笑わせてくれる力を持っているのだと思いました。8年生みたいに対応できる人になりたいです。



同じ素材を使って、違う相手と交流したことで、相手意識を持って会話することの大切さに気付けたようです。2年生からは交流後に「英語が上手で、すごく分かりやすかったです」「ぼくも6年生みたいにしゃべりたい」という手紙をもらいうれしそうでした。



指導助言・アドバイスコナー

小中連携といった場合、一気に「連携」に向かうのはなかなか困難です。そこで、まず、互いのことを知り合う「情報交換」と同じ時と場とを共有し何かを創り出す「交流」を繰り返し、やがて「連携」に向けて取り組まれることをお勧めします。この「交流」には、小学校教員と中学校教員、それぞれの校種の教員による乗り入れ授業のほかに、児童と生徒の交流授業が考えられます。この交流授業の準備に時間と労力がかかりますが、連携を進めるには大変効果的だと思います。本実践は、同校での異学年交流ですが、下学年は上学年にあこがれを抱くことで、上学年は、頼りにされたりプライドがくすぐられたりすることで、それぞれ学習の動機付けになっていることが分かりますね。
(文部科学省 視学官 直山 木綿子)